

2024 年度 第 4 回 定例会 議事録

1. 日時 : 2025年2月1日 (土) 13:30~17:00

2. 場所/形式 : Teams

3. 出席者 (敬称略)

Teams参加者 : 井内 稲垣 岩尾 岩見 植木 河本 城戸 佐竹 佐藤 末松 高畦
永岩 中田 南里 西井 松井 堀田 宮園 諸藤 (19名)

特別講師 : 西尾

欠席 : 勇 久原 外山 村岡 (4名)

4. 記録 : 佐竹委員

5. 議事・議題

(1) 【特別講義】演題 : 「技術士と法律 ～法工学・輸出安全～」

講師 : 西尾 行生/九州本部ものづくり部会 部会長

【講演要旨】

- ・法には配慮義務が必ずあって、関連法の内容、理念を読み取って、常識で考えて行動することが重要である。条文のグレーゾーンを争うのが裁判で、ほぼ常識で裁かれる。
- ・製品設計の業務は、大部分が製品安全に関するものだ。製品安全の基本中の基本はISO/IECガイド51である。安全はリスクアセスメントをして可能な限り配慮せよというのが世界の常識である。
- ・多くの法律は世界標準との整合性をとる。まずは世界標準、条約を地道に学習しておく。強い倫理観を持つ。最低限、「法工学」の教科書に目を通し確認しておく。
- ・外為法違反にならないように、輸出する前に輸出許可を取ることである。常識の中に正解はありそうである。

【意見交換】

- ・知識は個人のものか、組織のものなのか。技術者が別の会社に行って、グレーゾーンのものは個人のものでよいのでは。ただしパテントは駄目である。
- ・発明と発明の対価もあるのでは。
- ・裁判官の発言には、あまり法の条文(字面)を根拠としたものが出てこない。グレーゾーンや法律に書いてないものの判断は、やはり法の内容や常識に基づくようだ。
- ・AIは判例で裁く。裁判官は判例と人間の心で裁く。

(2) タスクチームからの報告・協議

■活動管理タスクチーム (勇チームリーダー欠席により資料回覧のみ)

- ・第1回定例会～第3回定例会の議事録及び「技術士だより・九州」の投稿原稿を提出。

■教育啓発タスクチーム (佐藤チームリーダー)

- ①テーマ1 : 協賛団体への活動について、活動計画の策定⇒アンケートの集計結果をまとめ

る。

- ②テーマ2：倫理観の多様性について、学生団体へのヒアリング実施及びその後の活動性の可能性調査の実施、他団体へのアプローチの実施、書籍等による研究の継続⇒当面、佐藤チームリーダーの考えをタスクチームメンバーに投げかけて意見を伺う方法で行なう。

投げかけテーマ案・・・①地球温暖化説は捏造、②気候変動・脱炭素の14のウソ、③禅と日本文化・東洋的見方

・APUの留学生へのヒアリングは4月以降に計画。

- ③勉強会実施⇒植木委員講演資料（技術者としての幸福を得るために考えておくべきと）についての意見交換を数回行った。

- ④タスクチームの活動の方向性（今後1年半目途）⇒Zoomミーティングを土曜日又は日曜日の19時～20時30分で行う。倫理委員の自由参加も可能（案内を展開）。

■企画・配信タスクチーム（松井チームリーダー）

- ①研鑽企画「法と倫理」の研鑽方法について具体的な進め方について説明があり議論した。
- ・委員全員に、「発表を考えている法令」「その理由」を提出していただく。（松井チームリーダーより呼びかけて、5月末までに）1つでも、複数でもよい。
 - ・6月の定例会で提出されたものを検討する。
 - ・9月の定例会で、ジャンルも考え、実施計画（発表者、順番、進め方等）を検討し、2026年以降の発表者を決める。
 - ・試しにやってみて、改善していく。
 - ・2026年の途中に事例、ホットな話題についても挟んだらいいのでは。
 - ・他の講師も間に入れてもらえたら（例えば、西南学院大学法学部の勢一智子教授など）

■連携・交流タスクチーム（西井チームリーダー）

- ・2025年全国大会が九州である。その時に、技術者倫理の情報交換会がある。また、開催地域の倫理委員会活動報告（中国も含めた報告）をする。そのため、九州の倫理委員会の歴史を数人で準備したい。来年の中国・九州倫理委員会協力行事も検討する予定です。

■沖縄管内倫理支援担当（井内委員）

- ・1月中旬に大村幹事にメールをした。CPDを何回やっているか。倫理の内容が入っているか。講師の用意ができるかどうか。返答はまだない。

（3）会務報告等

■統括本部倫理委員会報告

- ①CPD実績登録制度導入に伴う技術倫理教材の作成については、今年度9事例の製作中で動画作成及びHP改修について業者に発注済み。（啓発小委員会）
- ②セイコーマートの北海道地震の際の対応は、創作事例として検討する。女川原発の事例は、グッドプラクティスの創作事例として進める。（綱領小委員会：事例チーム）

■情報小委員会報告

- ①2024年10月号（執筆者：井本氏）は、「社会倫理」シリーズ第一弾「環境倫理」とし、2025年8月号（執筆者：岩見委員）は、「社会倫理」シリーズ第二弾とする。
- ②倫理委員会HP推奨図書の取り扱いについては、技術士会が推薦する図書として、HPに掲載

するのであれば、倫理委員会の中に査読チームを設けるなどして、推薦に値する図書を厳選して掲載すべきとの意見が大半であった。また、継続して議論すべきとの意見で一致した。→その後、査読チームを倫理委員会情報小委員会の中に作ることは、そこまでの体制が組めないで断念し、今後の検討課題となった。

(4) その他

- ・九州本部倫理委員会会則を審議して改定を決定した。
- ・新年度は、佐藤次期委員長のグーグルドライブで共有資料を保存していく。
- ・今後の倫理委員会の運営について、5月中旬までに佐藤次期委員長、永岩現委員長、次期副委員長予定者とZOOM会議を行い検討する。
- ・以降の議事録において、参加者は、名字のみを標記することとする。
- ・定例会の日程は、その月の4番目の土曜日にする。
(第1回:2025/6/28 第2回:2025/9/20 第3回:2025/10/25 第4回:2026/2/21)
- ・永岩現委員長：退会（6月28日まで参加）、勇委員及び久原委員：交代となる。
- ・次回定例会（6月28日）における新技術士倫理綱領解釈（意見発表）は、村岡委員を予定する。
- ・次回定例会（6月28日）の議事録担当は、末松委員とする。

以上